

経営内放牧成功のポイント！

栃木県飼料自給率向上戦略会議

遊休農地解消・鳥獣害対策として電牧柵による経営内放牧が注目を集めています。芳賀農業振興事務所での取り組み事例から、放牧の成功のポイントについて再確認し、効果的な放牧を進めましょう。

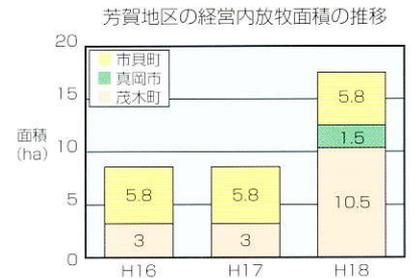
きっかけは地域との連携、成功のカギは草地に見合った放牧頭数！

★地域住民や地権者から理解を得るために…

県がアドバイス。役場が地域住民を集めて説明会を行いました。

遊休農地や利用しにくい農地への放牧は、地権者（耕種農家）も畜産農家もメリットがあり、簡単に連携できそうだと考えてしまいがちですが、実際は、心配や先入観があつてうまくいかないことが多いのです。

◎取組む前に地権者と放牧のルールを決めることが重要です！



■牧柵設置は誰がやる？…

志向農家等を集め設置作業を手伝うサポート体制を作りました。

牧柵設置は高い技術は必要としません。ですが、設置してみると、支柱の位置のズレや、設置作業の段取りの悪さ等に気づきます。また、少ない人数ではなかなか効率が上がりません。

◎みんなで手伝い合って放牧の輪を広げましょう！



地域住民に見守られながら放牧開始！

▼放牧直後に牛が脱柵し逃げられたのは…

馴致作業の不徹底と牧柵設置後の気の緩みが原因です。

放牧地の草刈から始まり、苦勞して設置した牧柵がやっと完成。後は牛を放すだけ。その時の気の緩みが牛を脱柵させます。牛舎内での電牧線の設置等によるしつかりとした馴致作業は基本ですが、放牧した後に、牛が落ち着いて草を食べるかどうか観察することも重要です。

◎牛も人間もしっかりとした馴致が必要です！



雑草も食べられ、きれいになった柵田

●和牛繁殖部会に波及させるために…

年度内に部会の代表を交えた検討会を実施しました。

経営内放牧の設置から農地の景観が改善されるまでの取り組みを、細かく記録し、その成果をまとめて、放牧に取組んだメンバーや和牛繁殖部会の代表者を交えた検討会を実施したことで、部会の代表者からの理解が得られ、部会員全体に波及し、大きな取組みとなりました。

◎やりっぱなしではなく、年度内に検討会を！



放牧の成果を検討 次年度に向けた対策

◆雑草繁茂の状態から、美しい景観に回復したのは…

草の状態や面積に合わせ放牧頭数を調整しました。

放牧牛1頭当たりの面積は雑草であれば30～50a、再生の期待できる牧草であれば15～30aが基本となります。多すぎる頭数を放牧すると、牛は痩せ、農地は泥濘化し、少なすぎると選び食いにより雑草が繁茂します。草地の状態に合わせた放牧頭数を設定するのが、牛の補助飼料もいらず草の管理も不要となる、最も効率的な放牧となります。

◎芝生のような美しい景観を形成するのが本来の経営内放牧！